

埋文ふじのみや

MAIBUN

Vol.6



顔面土偶（滝戸遺跡）

市内の縄文遺跡特集は、残すところ今号を含め、あと2回。1万数千年前から連綿と続いてきた人間の営みに、ロマンを感じていただけましたか？

さて、上の“土偶くん”出題のクイズの答え、知りたい方は埋蔵文化財センターの職員まで！ ご来館待ってます♪

縄文前・中・後期

Takido 滝戸遺跡

たきどいせき

縄文時代を代表する大遺跡

滝戸遺跡は、第三中学校の校庭を中心に潤井川まで広がる大遺跡で、縄文・弥生・古墳時代にまたがる複合遺跡です。縄文時代では前期から遺物量が増えて、中期の後半、曾利期に大いに栄えます。石囲い炉を中心に据えた竪穴住居跡4棟が円形に並び、その上層に径15mほどの円形配石跡が築かれています。そのなかに4~5mの小配石が配置され、埋甕や土壇、焼土が見られます。配石跡は北へ200mほど



発掘調査全体図



後期埋葬跡

富士宮市野中

調査年 /
1976年・1977年
1979年・1987年
2006年



向かった潤井川のほとりまで及んでおり、遺跡の全面にいくつかの配石が築かれていたと考えられます。曾利期の住居廃絶と配石の構築は富士山麓一円に共通するあり方で、近年では富士山の噴火との関連もうかがわれています。その後、後期前半の堀之内期に再度、大規模な配石跡が築かれます。中期の配石が面的に広がっていたのに対して、土壇を覆うように礫を積み重ねて塚のような配石への変化が見られます。

報告書 / 『滝戸遺跡』1997年
『滝戸遺跡II』2007年



配石の実測



顔面土偶



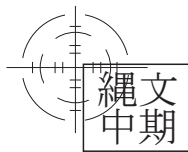
井戸尻式(勝坂式)土器



曾利式土器



堀之内式土器



Kamigayato 上谷戸遺跡

かみがやといせき

富士宮市猪之頭
調査年 / 1993 年

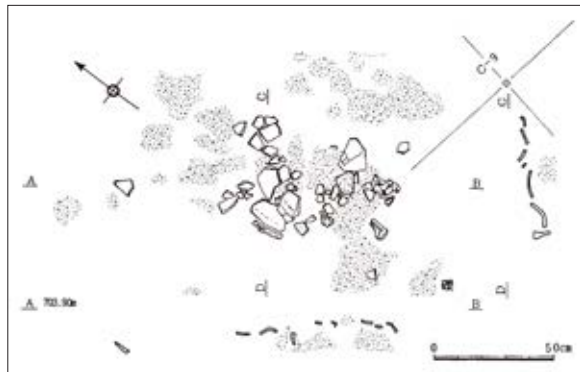


市内最北端の遺跡

上谷戸遺跡は、富士養鱒場内を水源とする芝川の右岸から西へ広がる縄文中期の遺跡です。水源に近い平地から中期前半の井戸尻式土器（勝坂式）1 個体が焼土の中に割れた状態で出土しました。この土器は4個の大きな把手が特徴で、出土した遺跡から「多喜窪重文タイプ」と称されており、関東西部を主体にして分布しています。遺跡は芝川沿いに南原遺跡、柚野辻遺跡、千居遺跡と点在する遺跡群の北端

にあたり、関東や中部山岳への文化交流の通過点だった遺跡と考えられます。他に人体を模した把手も出土しています。

『猪之頭養鱒場内遺跡』1994 年



土器出土状況実測図

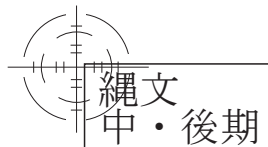


井戸尻式（勝坂式）土器
（手前 口縁部に付けられた把手）



人体文把手

Kamigayato



Oonakazato sakashita 大中里坂下遺跡

おおなかざとさかしたいせき

富士宮市大中里
調査年 /
2004 年・2013 年



豊富な遺物が眠る遺跡

大中里坂下遺跡は、大中里保育園の北側の緩い斜面から清水川のほとりに広がる縄文中・後期の遺跡です。小発掘のため遺跡の内容は深く知れませんが、縄文草創期の尖頭器や晩期（3,000 年前頃）の石剣が採集されるなど、幅広い遺物の包含が予想されます。保育園北側の 220 m²の発掘区では 2,167 点の縄文土器片が出土しました。中期前半の井戸尻式土器

から後半の曾利式土器を主体に、後期後半（3,500 年前頃）の加曾利 B 式土器も少数ながら見られました。発掘された土器は大型破片が多く、良好な保存状態にあったものと思われます。

報告書『大中里坂下遺跡』2005 年
『富士宮市の遺跡 V』2016 年



遺跡遠景

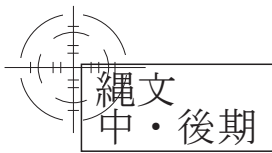


調査区全体図



曾利式土器

Oonakazato sakashita

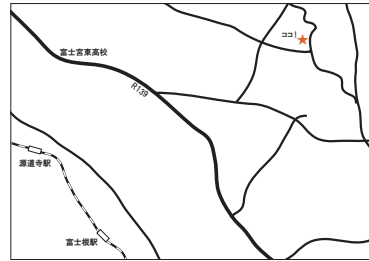


Takinoue 滝ノ上遺跡

たきのうえいせき

富士宮市杉田

調査年 / 1980年



円形配石と土壙墓

滝ノ上遺跡は、杉田ゴルフ場の南側一帯に広がる縄文中期（4,500年前頃）を中心とした遺跡です。丘陵の上下に配石跡が見られ、丘陵の上には中期前半の配石跡3基が築かれていました。丘陵の下の平地には中期後半の配石跡4基が築かれていましたが、その内の3基は土壙墓でした。3mほ

どの長円形の穴が掘られて、その上に人頭大の礫を積み、また、半分に割れた土器を覆い被せたものもありました。さらに、径5mほどの環状に築かれた配石の四隅には割れた石棒が置かれ、火を焚いた跡も見つかりました。非常に祭祀的な遺跡と言えます。

報告書『滝ノ上遺跡』1981年



曾利式土器と加曾利E式土器（手前）



集石土壙跡



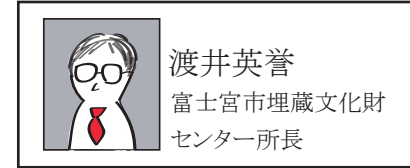
環状配石跡と浮子

遺跡から富士宮の原始・古代を考える 邪馬台国時代の富士宮

IV. 邪馬台国前夜④

富士宮市内には、2世紀の代表的な集落（ムラ）として、黒田小学校の南側に広がる月の輪上遺跡と富士宮第3中学校周辺の滝戸遺跡があります。月の輪上遺跡は、星山谷を見下ろす丘陵上にあり、谷と意図的に掘られた溝（環濠）によって囲まれた集落が見つかっています。滝戸遺跡は、南側に白尾山が聳えますが、その他は潤井川等の谷により画され、独立した台地上にある遺跡となります。台地の中央部分の学校の校地内では家の跡が見つかり、台地の縁となる潤井川沿いには墓の跡が見つかっています。家の跡を居住域、墓の跡を墓域とした場合、それぞれは極めて強い関連が指摘される位置にあり、限られた場所がいろいろな目的に使われていたことが知られるのです。

墓域は、方形周溝墓と呼ばれる周囲を四角に溝で取り囲む墓が、複数で群を成して確認されています。埋葬は、溝で囲まれた中央部分で行われていたと考えられてい



渡井英誉
 富士宮市埋蔵文化財センター所長

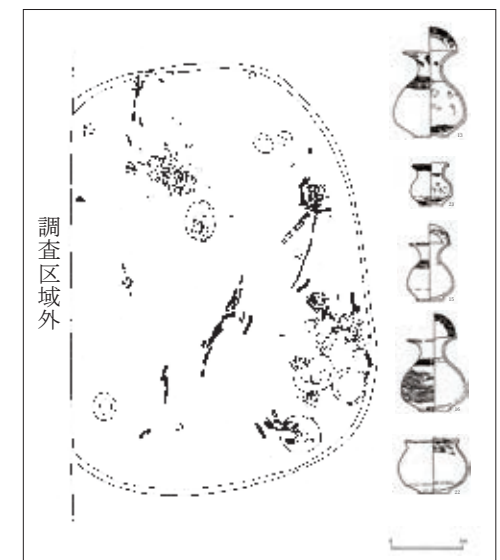
ます。この墓は、弥生時代の身分的な違い（階層）を反映しており、ムラのリーダーのためのものとされています。支配するものと支配されるものがはっきりしている社会がそこにあったことが分かります。この頃の遺跡は、それぞれのムラの中でリーダーがいて、その管理の中で多彩な生業を行う人々が集うもので、そのまとまりの中で村が治められたと考えることができるのです。

富士山麓において関連する遺跡は、滝戸遺跡や月の輪上遺跡以外に、集落が発見されている石敷遺跡（小泉）や泉遺跡（黒田）、墓域である城山遺跡（大宮）、祭りに関わるとされる下ヶ谷戸遺跡（黒田）などが上げられ、富士山の西南麓で比較的限定的な分布を示すものとなっています。2世紀前半の自然災害により、大きく遺跡の分布は変動するのですが、富士山西南麓においてもその影響は大きく、遺跡の分布は極めて特徴的なものとなっています。

住居平面図

左図：2世紀前半（滝戸遺跡）

右図：2世紀後半（月の輪上遺跡）



次号の案内

富士宮市内で見つかった

縄文時代の遺跡特集 4

富士宮市の見どころ案内 9月～11月の予定

ふじのみや門前市まつり 9月22日(日)

地元の名物市としての「ふじのみや門前市」と協同組合富士山特産品振興会による「特産品フェア」が一堂に会し、ふじのみや門前市まつり&特産品フェアを開催します。

場所：浅間大社

問い合わせ先：ふじのみや門前市まつり実行委員会 公益社団法人富士宮市観光協会 0544-27-5240

富士宮まつり 11月3日(日)～5日(火)

富士山本宮浅間大社、秋の例大祭。氏子が山車の引き廻し、手踊り等を行い、収穫の喜びを分かち合います。4日に行われる、山車・屋台の競り合いはこの祭りのハイライト。

問い合わせ先：富士宮市観光課 0544-22-1155

第20回 信長公黄葉まつり 11月10日(日)

西山本門寺境内の樹齢500年の柊の根元に、織田信長の首が埋葬されているとの伝説に由来する祭り。会場へのシャトルバス運行(詳しくは富士宮市HP)

場所：富士山西山本門寺 問い合わせ先：芝川商工会 0544-65-0273 富士宮市役所観光課 0544-22-1155

柚野の里まつり 11月23日(土)

大鹿窪遺跡の歴史と里山の自然あふれる柚野地域を満喫できる祭り。富士山を眺めながら、縄文時代の体験コーナーや、美味しい食の出店を楽しみませんか。

場所：富士山縄文の里大鹿館 問い合わせ先：柚野の里まつり実行委員会(富士宮市観光課) 0544-22-1155

富士宮市埋蔵文化財センター

ご利用案内

所在地 〒419-0315

静岡県富士宮市長貫 747-1

電話 0544-65-5151

FAX 0544-65-2933

E-mail maibun_center@city.fujinomiya.lg.jp

展示室

開館日 平日

* 祝日及び年末年始(12月28日～1月3日)は休館

開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)

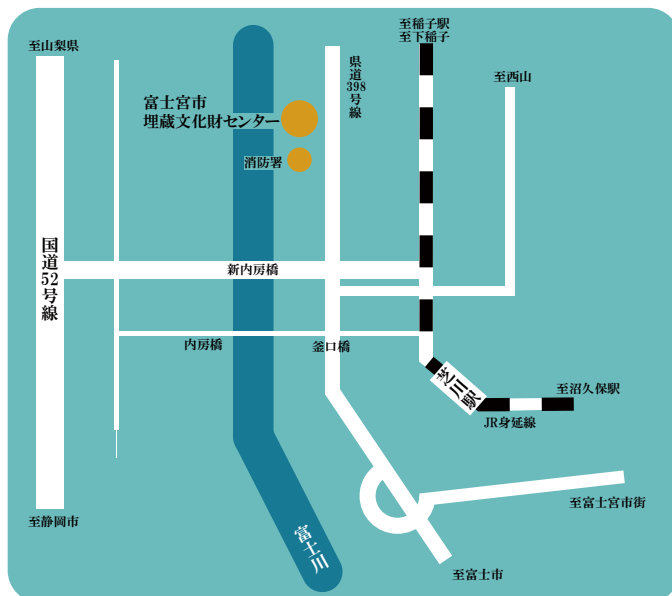
* 埋蔵文化財センターの業務時間は
8:30～17:15

見学料 無料

駐車場 あり(無料)



交通案内



富士宮市埋蔵文化財センターだより

埋文ふじのみや Vol.6

令和元年9月

編集/発行 富士宮市埋蔵文化財センター